

はくせんぎん

お正月

第 92 号 H27 年正月号

伊豆市 法住寺 発行

お正月には檀家の皆さんが本堂のご本尊さま日蓮大聖人さまに、そしてご先祖さまに、昨年の感謝と新年のご挨拶をされる。謙虚に慎ましく手を合わせ祈る、清々しいものである。その後、書院で住職と挨拶を交わす。心をこめて新年の挨拶を交わすことは、まことに清らかなことである。

正月に「お」をつけて「お正月」と呼んでみる、「おめでとうございます」と交わしてみ、それだけで周りの空気、一切のものが浄化され清められる。あらためて言葉は言葉であることを思う。

「寿量の祈り 感謝と敬意」

大自然 ありがとうございます。
社会の皆さん ありがとうございます。
ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます。

南無妙法蓮華經

*

お釈迦さまも耳にされたと思う古代インドの奥義書は示している。

『森羅万象にとって、地はその精である。地にとって水はその精である。水にとって草木はその精である。草木にとって人間はその精である。人間にとって語はその精である。』

まずは大地があつて水があり、草木があつて、人がある。そして言葉がありそれは精であると云う。

この語は、私たちの先人が縄文の生活を営んでいた頃のものであるが、約三千年たった今でも私の中にどっしりと納まる。森羅万象、大自然を大本に持つことは安定感、安心感がある。これからどんな時代になったとしても、地があり水があれば草木は育つ、草木あれば人が謙虚に慎ましく生きるかぎり自然は人を生かして下さる。更に続けて示す。

『語にとって讃唱（讃え唱えること）が精であり、讃唱にとつては、高唱（高らかに唱えること）がすなわちその精である。かくの如く、高唱なるものは精中の最精なるものなり。』

*

昨年十二月十四日洋明上人荒行お見舞い
激励団参、六十人を超える行僧の読経、御祈

禱は素晴らしいもので心の奥底に響いた。語の力、気の力、お経の力を感じ、それは「高唱、最精なるもの」を思うのだった。

*

お正月、おめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

南無妙法蓮華經

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

洋明さんが大荒行堂に入り、留守を預かる私たちも、朝のご給仕、庭掃除に始まり、様々な掃除、来客への対応、裏方の仕事、事務仕事や雑務に追われる日々です。そんな中、荒行堂の四百日目の修行僧の方よりお手紙が届きました。その中に少しだけ洋明上人の様子が書かれています。

*

そうした中、洋明上人は、再行僧トックラスのお手本として、小生はじめ多くの行僧が励まされております。とありました。この一文を読んで、私の背筋がピンとして参りました。

夜半の水行の辛い時、「夜空を仰げば星が

謹賀新年



法住寺護持会

〔総代、護持会長〕伊東修

〔総代、副会長〕杉山勲

〔総代〕森野道雄、室野義雄（世話人選出）

〔顧問〕山下 一

〔世話人〕伊東徹、伊東由廣、伊東幸二、

室野義雄、山下秀治、土屋正次、

小塚健治、佐藤薫、佐藤敏明

〔監査〕杉山修、室野好信

中伊豆立正大題目講（当山）

〔会長〕山下 一

〔顧問〕小塚勝

〔世話人〕山下 要、井本まつ、三田五月、

山下しづか、伊東はつ江、伊東すゑ子、

伊東ちゑ子、三田幸子、山崎まち、

伊東通子、伊東ミナヨ、滑川正勝、

滑川美奈江、山下 一、森野一夫、

小塚正司、山下 清、小塚貞夫、

小塚康清、山本宏衛、小塚愛子、

森野はま江、山下千代子、佐藤雄一、

佐藤賢吾、佐藤秀夫、杉山しまゑ、

山本義富

伊豆連合大題目講（当山）

〔副会長、理事〕山下 要

輝き、その空が伊豆の地とつながっているのだと思うと「がんばれる」と十二月の荒行団参面会で洋明さんが言っていたことを思い出しました。

「人は人と思うことで強くなれ、人に思われることで、なお強くなれるのだ」と思います。誰よりも大きい声でお経を唱え、誰よりも多くの水をかぶっている姿を想いながら。

留守を預かる私も、今は自分なりの修行が与えられた時だと再認識して一日一日を大切にしていきたいと思います。そして何時も皆さまにいつぱいの感謝をしております。本年も宜しくお願い申し上げます。

◎中伊豆立正会 山下 一 会長

今年の中伊豆立正会の会長を山下一（護持会顧問）様にお願ひ致しました。

この会は大見地区日蓮宗の檀家さんからなるお題目講で、明治時代より百五十年以上続く伝統あるお講です。菩提寺の枠を超え檀信徒中心にこれだけ長く続いているお講は、全国的にも貴重なものです。檀家さんは全員が会員になっていきますので宜しくお願い致します。

◎第一墓地南斜面ヒノキ伐採

約六十年前、皆さんの先代さんたちが夢をもって植林した下さったヒノキですが、急斜面でこれ以上大きくしておくとは危険なことから伐採しました。誠に申し訳ないことですが倒したままで処理しました。

◎境内整備作業

年末の境内作業（清水②のご奉仕）は作業の関係で春に延期してもらいました。春の整備作業は元村③ですが、宜しくお願ひ致します。

トピックス

♪ 全国すべての本山をお詣り

白龍会会長、万灯講でご活躍の小塚順一さんが、奥さんと一緒に全国の日蓮宗本山五七カ寺をお詣りされました。毎回、出かける度に鬼子母神さまに無事をご祈願、帰ってくる感謝の報告をされてきました。そして本山から頂いたご首題を掛け軸に表装し、仏壇の脇にかけて毎朝、手を合わせお詣りされています。

北は仙台から南は九州佐賀までの全国本



聞を、この寺報と共に配りしますの
でご覧になって下さい。

♪ 東北被災地慰霊団に参加して

伊豆連合大題目講副会長で法住寺の護持
会会計を長年お勤め下さった山下要さんが、
東北被災地への統一信行団参(東部宗務所主
催)に参加してくださいました。被災地を目
の当たりにして津波の凄さを改めて感じら
れたと云うことで手記をお願いしました。

尚昨年春に皆さんにお願いしました被災
者慰霊、復興祈願のお題目写経は、この団参
で海に奉納祈願され、また皆さんからの支援
金(法住寺分 95,950 円を含む)は、直接教

山をまわる
ことは大変
なこと、こ
の度「日蓮宗
新聞」トップ
に掲載され
ました。檀
家の皆さ
まには、掲
載された
日蓮宗新

育関係者に手渡すことが出来ました。

＊

『暗いうちに家を出てバスに乗り、宮城県石
巻市立日和山公園に十四時に着きました。日
和山公園は高台にあり、平地から百m以上あ
りますが、海に近い平地には家が一軒もない
荒地になっていました。震災後に建てられた
家がぼつんとあるだけです。これを見ただけ
で震災の恐ろしさで涙が出てきました。日和
山公園で震災の慰霊供養、復興祈願法要を行
い、引き続き支援金授与式を行い小学校三校、
中学校二校に贈ることができました。お礼の
挨拶で、まだまだ復興が遅れていることと予
算の不足という話がありました。そんな中で
の支援金は大変にありがたいと感謝の言葉

を頂き、少しでもお役に立てたかなと思ひ、
胸を撫で下ろしました。その後移動して北上
川河口川施餓鬼供養を行い、船上からお題目
写経をまき願いを込めました。
今回の宗務所主催の統一信行は、東日本大
震災で被害にあわれた行方不明者二五九八
名を含む一八四八七名のもとに私たちの慰
霊の気持ちを届けたいとの一心で行われま
した。現地でのお題目の法力、檀信徒の皆さ
まの信力、ご寺院さまの信力が融合し、必ず
や被害者のそれぞれの魂に届くと信じてお
ります。

二日目、南三陸町のホテルを出発、車中で
は佐藤女史による現地を見ながらの語り部
をして頂き、聴けば聴くほど本当に大変な震
災であったことを知り、ここでも



北上川河口にて、お題目写経を海へ



南三陸街防災センター、
女子職員が最後まで避難放送

涙しました。震災の爪痕が生々し
く残っている南三陸町防災庁舎に
行き、回向、焼香し供養しました。
三階建ての防災庁舎屋上まで十五
m程あります。避難放送を出し続
けた女子職員をはじめ屋上に五二
人が避難、この内四二人が犠牲に
なりました。百m程離れた所に高
野会館があり四階建てで、その屋
上には館内にいた三二七人を上げ

た為、全員が助かったとのこと。一八mの津波、その破壊力は考えられないものであると思いました。参加者九六名、その内中伊豆は一二名でしたが天城や伊東の人たちと親しくなり、参加して本当に良かった、また機会があったら参加しようという良い団参でした。』(山下要さんより)



◎激励お見舞い団参

昨年十二月十四日、洋明上人への激励お見舞い団参を行いました。先ずは面会、どんな様子で出てくるか参加者全員ジツと待ちます。幕がサツと引かれやつと面会。初行の時は見るのも忍びないという感じでしたが、何とかやっつけていけそうか、また初行僧の指導が加わった大変さを感じたのでした。

檀信徒の皆さんと直接面会できたことは、何よりの何よりもの励みになったことでしょう。ご参加、誠にありがとうございます。

御志納金「十一月〜十二月」

清水 飯田まつみ殿 尊父葬儀
伊豆の国市 三田 義行殿 尊父葬儀

第1回荒行団参四一名、法華経寺玄関にて



の力を感じたのでした。

荒行堂を後にして「面会で待つ時の凜とした感じ、すごかったね」、「しっかりした感じだったけど目は限界だったね」等々。帰りにはおばあちゃん原宿と云われる巣鴨のどげ抜き地藏尊へ。縁日ということもあり人があふれていました。一月十一日には第二回目の激励団参があります。ご参加のほどお願い致します。帰りは浅草でゆっくりしますが、新春の浅草も賑やかです。

六十人を超す修行僧の御祈禱があり素晴らしいものでした。自然に涙し感動する皆さんでした。心の奥底に響くお経

の日は内定しました。厳寒の中での修行を成し遂げて帰山する、洋明さんをぜひ檀信徒の皆さんで迎えてやって下さい。

この修行を支えて下さったのは何と云っても檀家さんです。その中心になる護持会長さんのお宅へ先ず帰り、無事修行できたことのご挨拶、お礼を申し上げます。これを「親もと」と云い、今回の荒行を行った何人かの修行僧も一緒に伺います。挨拶後、伊東会長家御守護のお経をあげ、その後、車で移動し、お寺の近くから行列を組む予定です。無事に帰って来てくれると思いますが、そうならば嬉しいことだから、白龍会にお願いして万灯でお迎えしたらという声も頂いています。

詳細は今月十八日に役員会を開き、皆さんに連絡お願いしてまいります。役員さんだけでは手が足りなくなるでしょうから、檀家の皆さんのご支援ご協力を宜しくお願い致します。

◎星祭の

旧暦正月を節に毎年一月末に行っています星祭りは、帰山式に含めて行います。ご祈願の方は二月十五日帰山式にお願い致します。

◎帰山式 二月十五日(日曜日)午前中

修行を遂げて法住寺に帰ってくる「帰山式」